



## **2005年3月期第3四半期業績概況資料**

**株式会社 ニチレイ**

**2005年2月10日**

お問合せ先:

財務・IR広報部 (IR広報担当)

柳沢 健二、横山 一樹

TEL: 03 - 3248 - 2235

E-mail: yanagisawak@nichirei.co.jp

yokoyamakz@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir>



# 第3四半期は増収減益、通期営業利益見込は据置

## 2005年3月期第3四半期連結業績と通期業績見込

単位:金額=億円 (未満切捨て)	3Q		1~3Q		4Q		通期		
		前年比		前年比	(E)	前年比	(E)	前回(E)比	前年比
<b>売上高</b>	1,272	+68	3,557	-433	1,039	+64	4,597	-73	-369
<b>営業利益</b>	41	-6	120	-12	16	+9	137	0	-2
<b>経常利益</b>	38	-4	112	-2	15	+9	128	-6	+7
<b>当期純利益</b>	13	-5	56	-2	-2	+75	54	+8	+72

### 1. 売上高

注:(E)は今回発表した見込、前回(E)は11月2日に発表した見込

第3四半期(10~12月)は冷凍食品の拡販を進めた加工食品、物流ネットワーク事業の拠点が増えた低温物流と畜産が前期比増収

通期では73億円の下方修正、水産の取扱数量の低迷が主因

### 2. 営業利益

第3四半期は調理冷食の原材料コストが上昇し採算が悪化した加工食品と、高値時期の手当てで輸入チキンの原価が一時的に逆ざやになった畜産が前期比減益に、その他は概ね前年同期並

通期では水産と加工食品を下方修正、一方で低温物流で上ぶれに、不動産の分譲を追加して全体では前回見込通りとする

### 3. 経常利益・当期純利益

第3四半期の主な特別損失は低温物流事業の分社化に伴う特別退職金と販売用不動産評価損

通期では特別退職金が当初計画を下回ったことや固定資産の売却計画の変更などで、当期純利益を上方修正



# 加工食品と畜産はチキンのコスト上昇で前期比減益に

## セグメント別売上高と営業利益(その1)

### 1.加工食品

第3四半期は積極的に販売促進を進めた冷凍食品が売上を著しく伸長。利益面では、冷食の売上増や製造コスト低減によるプラス効果の一方で、チキンや牛肉などの原料コスト上昇や拡販策による商流費比率の上昇などマイナス要因が大きく、前期比減益に。

通期では売上を7億円上方修正するが、営業利益は第3四半期に計画線を下回っており6億円の下方修正に。

### 2.水産

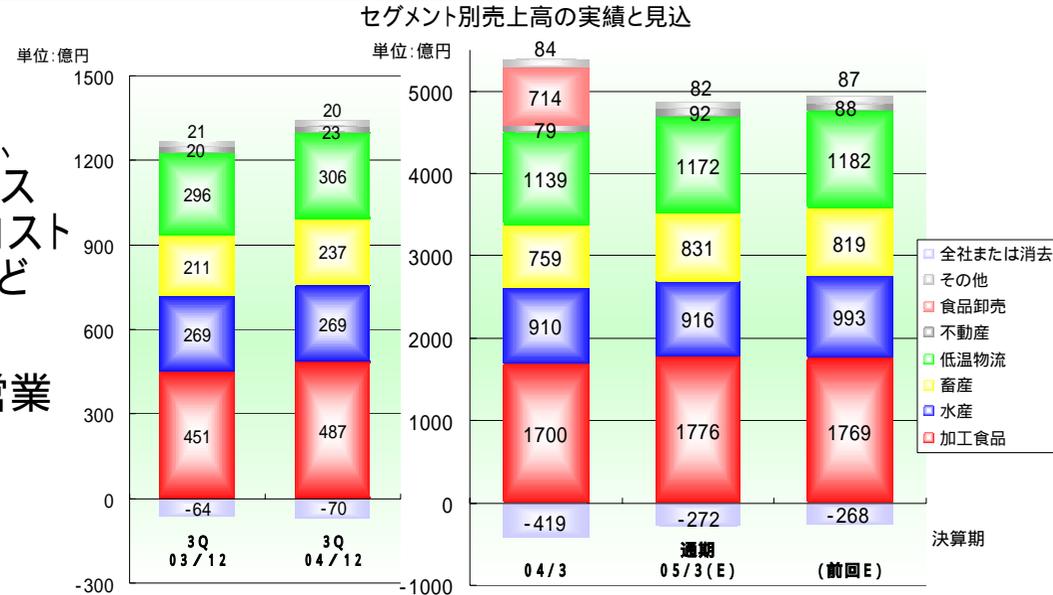
第3四半期は北方底魚などで国際的買付競争による日本市場への搬入量減少が続く。えびやさけは潤沢な供給により販売価格が低迷、得意商材のかにも中越地震などで販売環境が悪化し、売上は前年同期並、営業利益も計画線を下回る。

第4四半期も厳しい業界環境が続く見込で通期売上は77億円の下方修正。取扱商品の選択と集中を通じて固定費の圧縮や調達・販売の効率化に努めるが、営業利益は前回見込から8億円の下方修正に。

### 3.畜産

第3四半期は豚肉の取扱が伸長し前期比増収だが、鳥インフルエンザ発生直後に安定供給のため調達したブラジルなどからの輸入鶏肉が価格の沈静化により採算が一時的に悪化し、営業利益は減益となる。

通期でも売上高は上方修正だが、営業利益は第3四半期が計画未達のため2億円の下方修正。





# 低温物流は通期営業利益を上方修正

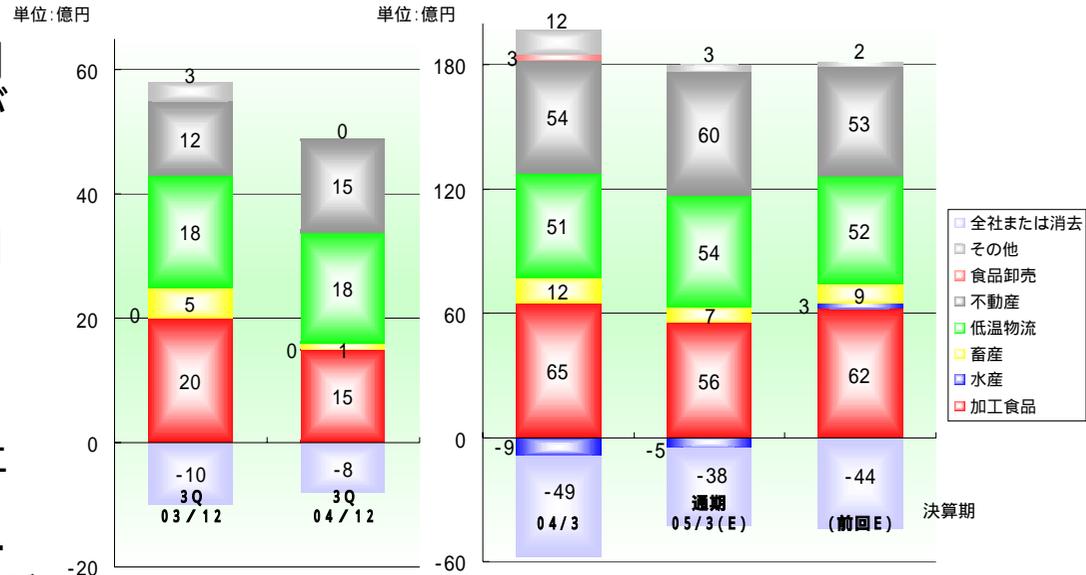
## セグメント別売上高と営業利益(その2)

### 4.低温物流

第3四半期は物流ネットワーク事業で関西センターが稼働を開始し立ち上がりが順調、地域保管事業は中間期に引き続き新規貨物の集荷に注力。売上高は前年比増収、営業利益は海外事業の欧州で昨年にあった一時的物流需要がなくなったことが影響し全体では前年並に。

第4四半期には物流ネットワーク事業で2つの新設センターが稼働を開始し売上増に寄与、地域保管事業も順調に推移する見通し、売上は一部の新設センターで取扱数量が計画を下回り下方修正だが営業利益は上方修正。

セグメント別営業利益の実績と見込



### 5.不動産

第3四半期は群馬県高崎市の土地売却などで前期比増収増益に。

通期でも第3四半期に計画線を上回った分、売上・利益とも上方修正。

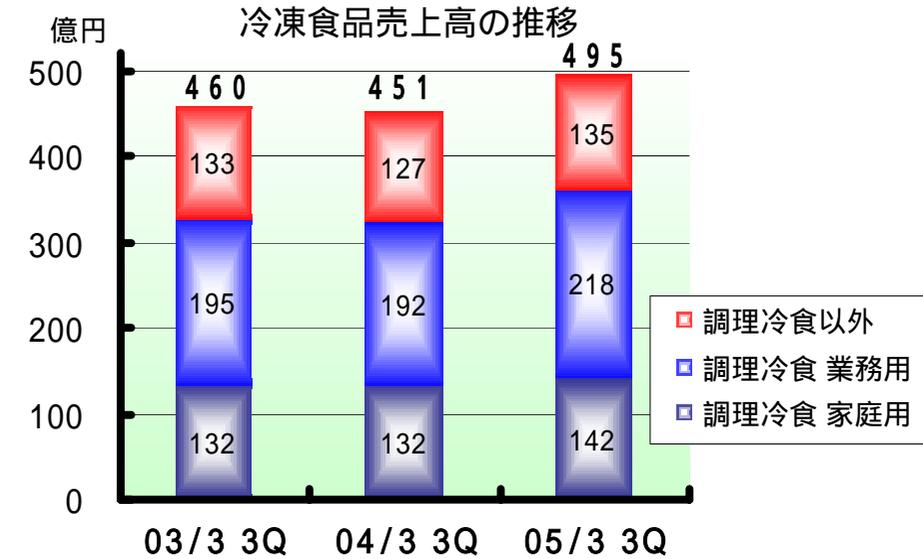
### 6.その他

第3四半期は米国のてんぐがBSE発生に伴うビーフジャーキーの生産休止が続く、バイオサイエンスは試薬製品が順調だが血清・培地製品の大口ユーザーへの販売が第4四半期以降にずれ込む、全体では前期比減収減益に。



# 冷凍食品売上高は第3四半期に大きく伸長

## ニチレイ(単体)の第3四半期冷凍食品売上高



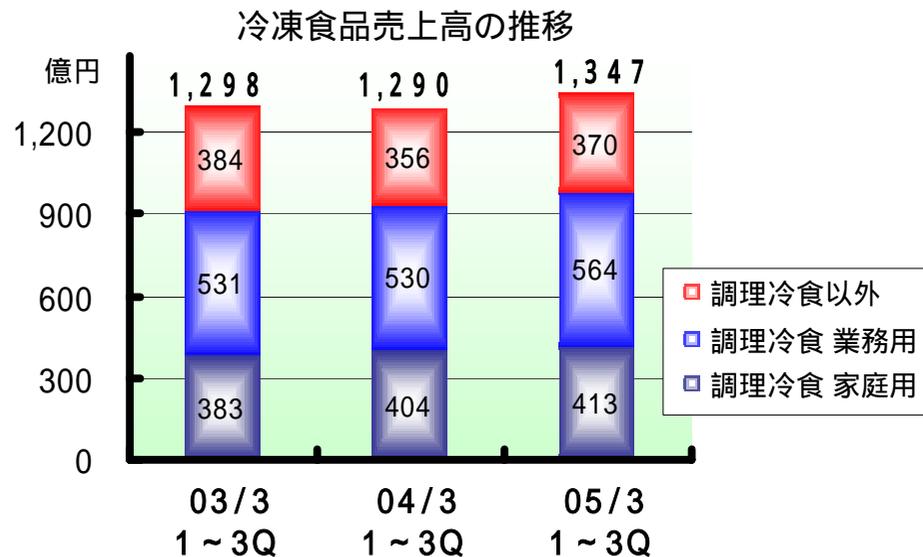
### 1. 冷凍食品全般

第3四半期(10~12月)は前年比10%増と好調、4~12月累計では4%増。家庭用・業務用を合わせた調理冷食全体では第3四半期に11%増、累計5%増。冷凍野菜は台風による生鮮野菜の高騰もあり当四半期は売上を順調に伸ばした。

### 2. 調理冷食

家庭用:第3四半期は8%増。『お弁当にGood!』は9%増、特に『からあげチキン』『ミニハンバーグ』『ほうれん草バター炒め』が売上を伸ばした。米飯類も引き続き好調。『甘えびシューマイ』がCM投入によりシェアを拡大した。

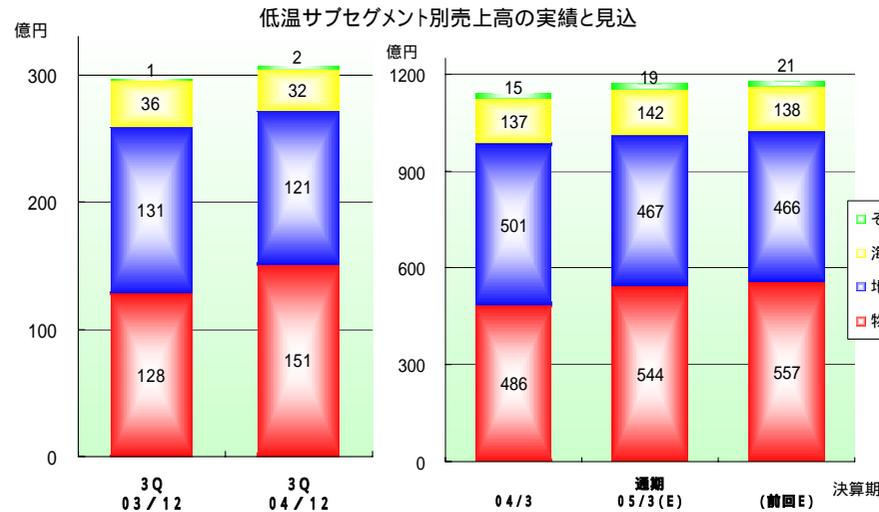
業務用:第3四半期は14%増。惣菜や給食など特定の業態向けに開発した商品が着実に実績を挙げた。カテゴリー別では、年末需要シーズンを迎えたチキン加工品が当四半期に大きく実績を伸ばしたほか、食肉加工品も『グレイビーハンバーグ』が好調を持続。





# 通過型の関西センターが順調な立ち上げに

## 低温物流事業のサブセグメント別対前期比増減要因と通期見込

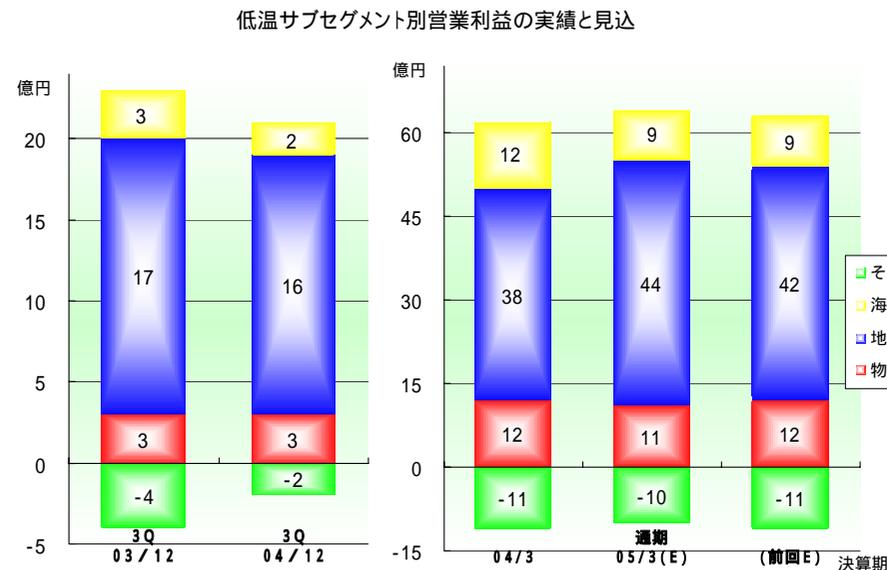


### 1. 物流ネットワーク

第3四半期は大手量販店専用の通過型センターとして最大規模の関西センターが稼働を開始し増収に貢献、順調な立ち上げにより初期費用も計画以下に抑制した。第4四半期には新設センター2ヶ所が稼働開始するが、今期中に新設のセンターの一部で取扱数量が計画を下回るため通期売上を下方修正。

### 2. 地域保管

第3四半期は前期比減収となったが、旧冷蔵子会社の食品部門のセグメント変更やグループ外への売却といった特殊要因を除くと増収。第4四半期は前期にBSEや鳥インフルエンザで在庫量が減少したが今年は代替貨物を集荷しているため増益に、通期でも前期比増益を見込む。



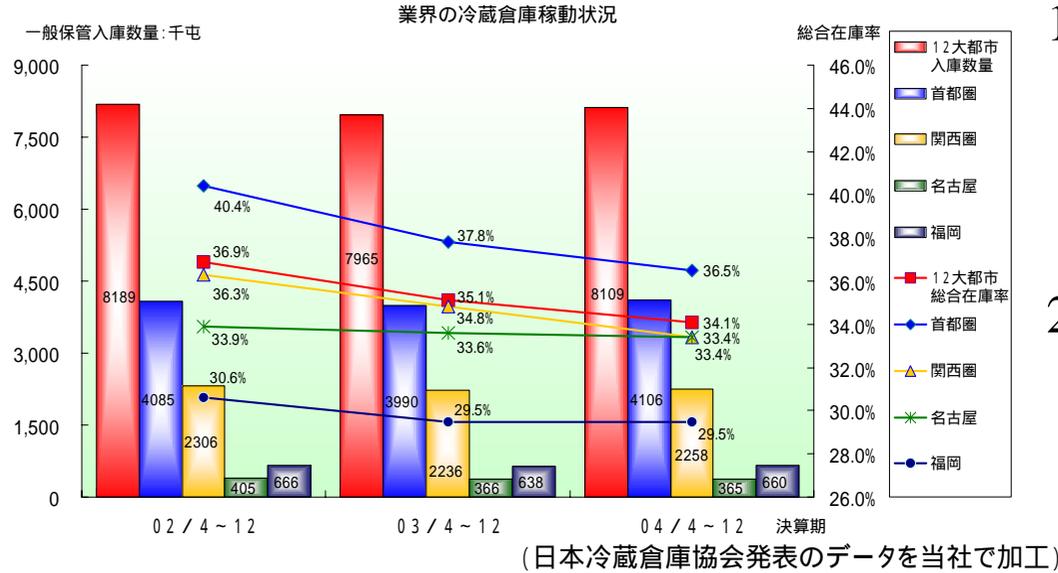
### 3. 海外

前期に欧州で顕在化した一時的物流需要が今期はないため減収減益。通期でも減収減益だが、第4四半期にはロッテルダムで新設の冷蔵倉庫が稼働を開始。



# 当社冷蔵倉庫は在庫率の低下に歯止めがかかる

## 冷蔵倉庫の稼働状況

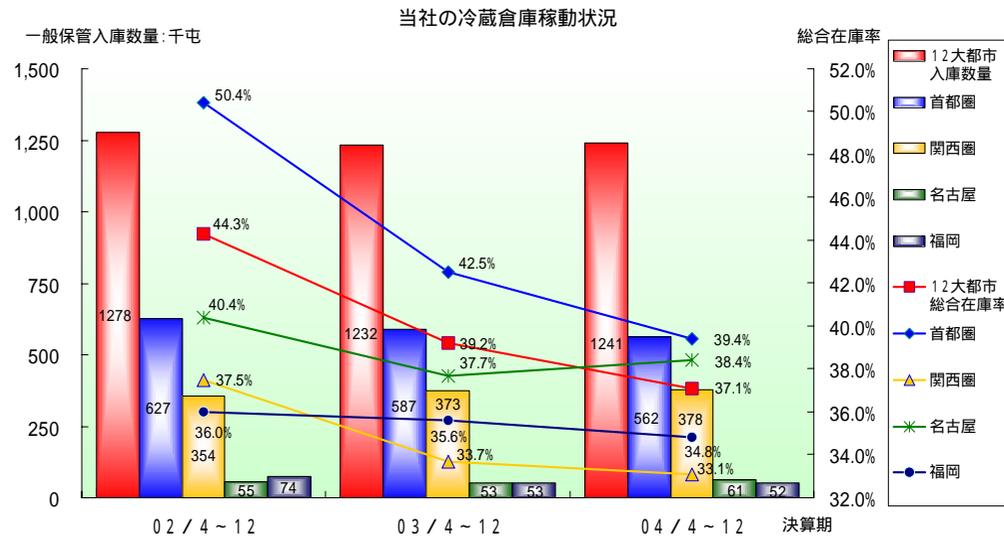


### 1. 業界の状況

入庫量は首都圏を中心に若干増加している一方、在庫率は特に首都圏と関西圏で第3四半期も低下傾向が続いている。

### 2. ニチレイグループの状況

BSEによる米国产牛肉搬入停止の影響を大きく受けている首都圏を除くと入庫量は概ね横ばいで、昨年まで続いていた減少傾向が収まっている。取扱貨物の中で回転の早い冷凍食品の比率が高まっていることもあり、在庫率は首都圏を中心に低下しているが、第3四半期は前年同期との乖離幅を縮めている。





## 通期の営業外収支と特別損益は前期比好転

単位:億円、単位未満切り捨て プラス表示は利益を示す	第3四半期(10~12月)				通期		
	04/12	03/12	増減		05/3E	04/3	増減
<b>【営業外収支】</b> (主要項目)	- 3	- 5	+ 1	<b>【営業外収支】</b> (主要項目)	- 9	- 18	+ 9
金融収支	- 3	- 4	+ 1	金融収支	- 14	- 17	+ 3
持分法投資損益	+ 3	- 1	+ 4	持分法投資損益	+ 14	+ 1	+ 12
棚卸資産廃棄損	- 3	-	- 3				
<b>【特別損益】</b> (主要項目)	- 12	- 11	- 0	<b>【特別損益】</b>	- 26	- 159	+ 133
退職給付債務戻入益	+ 7	-	+ 7				
特別退職金	- 9	-	- 9				
販売用不動産評価損	- 9	-	- 9				
事業所閉鎖損失	- 0	- 10	+ 10				

### 持分法投資損益の増減の主な内訳

通 期:アールワイフードサービスが04/3比プラス7億円、京都ホテルがプラス3億円、スラポンニチレイ食品が1億円減

タイのスラポンニチレイ食品は鳥インフルエンザ発生による一時的な生産停止が響く

低温物流事業の分社化に伴い従業員が転籍することによるもの

第4四半期に発生が見込まれる主なものは持株会社化に伴う費用、通期では前期に京都ホテル土地・建物の売却損があった関係で特別損益が前期比で大きく改善

## セグメント別売上高・営業利益の実績・見込・前回見込・前年実績

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	第3四半期(10~12月)		通 期		
	03/12	04/12	04/3	05/3(E)	(前回E)
<b>(売上高)</b>					
加工食品	451	488	1,700	1,776	1,769
水産	269	269	910	916	993
畜産	211	237	759	831	819
低温物流	296	306	1,139	1,172	1,182
不動産	20	23	79	92	88
食品卸売	-	-	714	-	-
その他	21	20	84	82	87
全社または消去	-64	-70	-419	-272	-268
合計	1,204	1,273	4,966	4,597	4,670
<b>(営業利益)</b>					
加工食品	20	15	65	56	62
水産	0	0	-9	-5	3
畜産	5	1	12	7	9
低温物流	18	18	51	54	52
不動産	12	16	54	60	53
食品卸売	-	-	3		
その他	3	0	12	3	2
全社または消去	-10	-8	-49	-38	-44
合計	48	42	139	137	137

注：05/3(E)は今回発表した見込、(前回E)は2004年11月2日に発表したもの



## 当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略等のうち歴史的事実でないものは、将来の業績に対する見通しであります。将来の業績に対する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、様々な重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ニチレイグループの事業活動を取り巻く個人消費動向を中心とした経済情勢および業界環境
- 米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- 商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- 新商品・新サービス開発の実現性
- 成長戦略とローコスト構造の実現性
- 有利子負債削減の実現性
- ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- 偶発事象の結果 など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。